

第 4 学 年 国 語 科 学 習 指 導 計 画

4 年 2 組 指 導 者 五 十 部 大 暁

1 8 M (6 時 間) が本時

学 習 活 動	子 ど も の 意 識
第 1 次 「アップとルーズで伝える」を読み、学習の見通しをもつ	3M (1時間)
学習内容 ・筆者の工夫について考えようとする意欲 (態)	
<input type="checkbox"/> 「アップとルーズで伝える」を読み、見つけた中谷さんの工夫を交流する (3M)	<ul style="list-style-type: none"> ・今回の説明文は「アップとルーズで伝える」というのか。アップは聞いたことがあるけれど、ルーズって何だろう。読んでみたい。読んでみると、アップとルーズのことがよく分かったし、中谷さんが伝えたいことも分かったよ。分かりやすいということは、中谷さんが何か工夫をして文章を書いているのではないのかな。アップとルーズのことがよく分かったのは、写真があるからだよ。それに、3段落でアップとルーズをまとめているからではないのかな。アップとルーズを比べているからだ、と言っている人もいるね。どのように比べているのだろう。3段落の問いと6段落のまとめがあるから分かりやすいと言っている人もいるよ。みんなの考えを聞いてみると、工夫がはっきりしないところもあったね。中谷さんがどのような工夫をしているのかみんなで話し合ってみよう。
第 2 次 段落相互の関係について話し合う	
学習内容 ・対比の仕方や事例の工夫の理解 (知) ・段落相互の関係についての自分の考え (思)	
<input type="checkbox"/> 中谷さんが写真を入れた意図について考える (3M) <input type="checkbox"/> 中谷さんがアップとルーズをどのように比べているのかについて考える (3M)	<ul style="list-style-type: none"> ・アップとルーズの説明が分かりやすいのは写真があるからだ、と言っている人がいたね。中谷さんは分かりやすくするために写真を入れたのかな。だって写真がないと「初めの画面のように、広いはんいをうつつり方をルーズといいます。」という文は意味が分からないよ。「アップでとったゴール直後のシーンを見てみましょう。」も困るね。そうか、中谷さんは写真の内容を文章で説明してアップとルーズのことを分かりやすく伝えていたのだね。それに、読者にアップとルーズに関心をもってもらおう目的もあると思うよ。1段落と2段落を読むとサッカーの試合をテレビで観ているような気分になったよ。写真を使いながらサッカーの試合の実況をしているように書いているのだね。中谷さんは、アップとルーズを説明したり読者の関心を高めたりするために写真を入れたことが分かったよ。 ・3段落でアップとルーズをまとめているから分かりやすいと言っている人がいたよ。たしかに1段落と2段落のアップとルーズの映し方を3段落でまとめているね。それに、アップとルーズを比べているから分かりやすいと言っている人もいたよ。中谷さんはどのように比べているのだろう。比べているのは4段落と5段落だよ。伝えられることと伝えられないことが書いてあるのだね。前に学習した「だれもが関わり合えるように」のときのように観点を決めて整理すると何と何を比べているか分かりやすくなりそうだね。整理してみると伝えられること同士、伝えられないこと同士のことを比べていることが分かったよ。でも、比べるとなぜ分かりやすくなるのだろう。比べると違いがよく分かるよ。教科書には『二つのものをくらべてちがいはっきりさせることを「対比」といいます。』と書いてあるね。中谷さんは対比を使って違いを分かりやすくしているのだね。
<input type="checkbox"/> 中谷さんが7段落を書いた意図について考える (3M)	<ul style="list-style-type: none"> ・3段落の問いと6段落のまとめがあるから分かりやすいと言っている人がいたね。それなら、6段落で文章を終わってもよいのかな。8段落は全体のまとめだから必要だよ。でも、7段落は必要かどうかよく分からないな。

	<p>中谷さんはなぜ7段落を書いたのだろう。7段落がない説明文と7段落がある説明文を比べてみるよ。7段落があるとアップとルーズを使い分けていることがより伝わってくる気がしたよ。それは、アップとルーズの使い分けが6段落の「目的におうじてアップとルーズを切りかえながら」と7段落の「目的にいちばん合うものを選んで」で2回あるからだと思うよ。テレビだけでなく新聞でも目的に応じてアップとルーズを使い分けていることを書いているからより伝わってくるのだね。中谷さんは、目的に応じてアップとルーズを使い分けていることを読者にしっかり伝えるために7段落を書いたのだね。中谷さんはいろいろな工夫をして説明文を書いていたのだね。他の説明文の筆者も中谷さんのような工夫をしているのかな。</p>
--	---

第3次 段落相互の関係について考えながら「手で食べる、はしで食べる」と「動物たちのしぐさ」を読む **6M（2時間）**

学習内容 ・段落相互の関係について考えながら説明文を読もうとする意欲（態）

□段落相互の関係について考えながら「手で食べる、はしで食べる」を読む（3M）

- 先生が「手で食べる、はしで食べる」という説明文を紹介してくれたよ。筆者の森枝さんはどのような工夫をしているのかな。「手」と「はし」という題名だから対比が使われているのではないのかな。食べ方の違いを分かりやすくしているのかな。実際に読んでみると、やはりお米の形や特徴、食べ方に対する考え方について対比で書かれていたね。対比することによってそれぞれの違いがよく分かったよ。対比を考えながら読むと、説明文の内容や筆者の森枝さんの伝えたいことがより分かりやすくなった気がするよ。それだけではなくて、読者にお米の形や特徴、食べ方に対する考えの違いを伝えたいという森枝さんの思いもよく分かったよ。先生がもう一つ紹介したい説明文があると言っているよ。次はどんな工夫をして書かれている説明文なのかな。

□段落相互の関係について考えながら「動物たちのしぐさ」を読む（3M）

- 先生がもう一つ「動物たちのしぐさ」という説明文を紹介してくれたよ。筆者の加藤さんはどのような工夫をしているのだろう。実際に読んでみると、13段落までは動物が気持ちを表すしぐさが書いてあるけれど、14段落と15段落は危険を知らせるしぐさが書いてあるよ。これまでの段落と少し違うのだね。筆者の加藤さんはなぜ14段落と15段落を書いたのだろう。危険を知らせるしぐさがあると、まとめの「なかまにつたえたりして」という部分がより伝わってきたよ。仲間に伝えるしぐさもあるということを読者にしっかり伝えるために14段落と15段落を書いたのではないのかな。加藤さんが段落を書いた理由を考えながら読むと、説明文の内容や加藤さんが伝えたいことがより分かりやすくなったよ。これから説明文を読むときにも、対比の関係が使われている部分や筆者が段落を書いた理由について考えながら読んでいきたいな。